

通巻特集

発達障害

① 障害像を理解する

- 012 発達障害の主軸となる障害の理解
鷺見 聡
- 024 運動発達の遅れについて
新田 収
- 034 日常生活における
各種活動の学習の遅れ・
困難さとその因子について
岩永 竜一郎
- 044 社会的行動の学習の遅れ・
困難さとその因子について
佐々木 大樹

連 載

- 060 障害をもった子の内部障害①
「呼吸器」
小林 主献、横山 美佐子
- 066 こどもの伸びる力を信じる食事支援①
私たちは何のためにこどもの食事を支えるのか
浅野 一恵
- 074 他職種からみたセラピスト①
保育現場の発達支援（保育士の立場から）
林 尚子

特別寄稿

- 080 虐待防止の一手手前から
文字のない絵本を通じた
虐待よぼう推進事業
虐待のリスクは子育てに関わるすべての人にある
石川 はるえ、なるかわしんご

そ の 他

- 058 ピアサポート（みんなの子育て日記）
- 096 奥付

巻頭 interview [こどもと共に]

父と弟は野球へ、母とSはバスケ観戦へ
向かうのが我が家の週末です



巻頭INTERVIEW

子どもと共に

社会で
生きていくための
ちからをつける。



障がいがあってもみんなと同じような生活をしてほしい。

友達と一緒に学び、遊んでほしい。

障がいを理由に諦めないでほしい。

とりあえずチャレンジ。

ダメなら違う方法で。

あなたなりの人生を楽しんでほしい。

1

脳性まひ

バスケット好きの中学1年生

——バスケットボールが好きな男の子と聞いていました。バスケットボールのどんなところが好きですか？

Sくん これを話し出したら止まらないですよ。刈谷のシーホース三河というチームが好きで、特に桜木ジェイアールという選手が好きでたまりません。どはまりしています。

——好きになったのはいつ頃からですか？

Sくん 小学校4年生の時に学校から無料招待券をもらったのがきっかけです。たまたまその試合を見に行ったら、はまってしまって。とくに得点が入る瞬間が好きですね。

桜木ジェイアール選手の体を使った、ゴリゴリに押しして行きながらのシュートがしびれます。ファンサービスでも、1人ひとりにすごく優しく接しているところにも惹かれています。ホームの試合の日には、よく観戦して、アウェイの時でも電車を使って見に行っています。

利用者：中学1年生男児
疾患名：脳性まひ
家族構成：両親と弟と4人暮らし

また、DSM-5では、「ディメンショナル」という新たな概念が導入されている。この考え方は精神医学分野で広まってきた考え方で、「ディメンショナル」を日本語に直訳すると「次元的」となる。ある特徴（症状）をひとつの次元と捉え、その特徴がどの程度かを評価することである。たとえば、〇〇に関してはこの程度、△△に関してはこの程度、□□に関してはこの程度、と評価を行う（図1）。このような評価を行うことにより、1人ひとりの発達の凸凹がより正確に把握できるようになる³⁾。

なお、DSMの英語版の「disorder」という単語は、これまでは「障害」と訳されていたが、「障害」という訳語が強いショックを与える場合があるため、「症」（複数形は症群）と訳することになった。ただし、従来の訳語を禁止すると混乱が生じるため、現時点では「症」「障害」のいずれを使用してもよいことになっている。なお、本稿では「症」を使用する。

(2)自閉スペクトラム症 (ASD)

自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder : ASD) は従来の広汎性発達障害に相当する診断分類である。

ただし、これまで設けられていた下位分類（自閉性障害、アスペルガー障害、レット障害、小児期崩壊性障害、特定不能の広汎性発達障害）が廃止され、ASDというひとつの分類になっている（図2）。自閉的な特徴が、重症例から軽

3) 鷲見 聡：診断分類の変遷。発達障害の謎を解く。東京：日本評論社：2015。p.114-126.



図1 ディメンショナル評価のイメージ図
多軸で評価を行うことで、疾患の多様性を捉えることができる

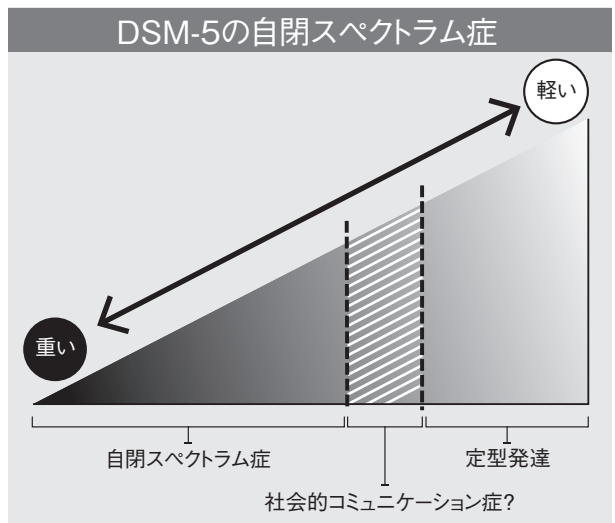


図2 広汎性発達障害と自閉スペクトラム症

連載 | こどもの
伸びる力を信じる
食事支援

第1回 私たちは何のために
こどもの食事を
支えるのか

社会福祉法人 小羊学園 つばさ静岡
医務部長 医師
浅野 一恵

はじめに

若きセラピストへ

あなたは「これまで障害児に対して漫然と行われてきた受動的な機能訓練は、効果が認められなかった」というシステムティックレビューが2013年に発表された¹⁾のを知っているだろうか？ 世界中の医師やセラピストが衝撃を受け、障害児に対するセラピーを根本から見つめなおす必要性に迫られている。

そんななか、私は重症児施設のいち小児科医として、目の前の子どもたち、親御さん、介護者にこれまで教えてもらったことを伝えたいと思う。「目の前の子どもにとっての答え」にたどり着くためには、こどものそばにいるすべての支援者が知恵を絞り合い、迷い、試行錯誤しなければならぬことを学んだ。そしてその過程を経ることによってのみ、その子どもを取り囲む皆が「納得し、満足できる地点」にたどり着けることを知った。今回のこの連載では、食

事支援をきっかけにして、見つけることができた子どもたちと家族の笑顔を伝えていきたい²⁾。

たった今からできる
最も大切なこと

若いセラピストが今すぐできることは何だろう。それは目の前の子どもがその一口を苦痛なく楽しく食べられることを願うこと。これは今すぐのできることであり、子どもや家族は、そのことを一緒に願ってくれる存在を何よりも待ち望んでいるのだ。

楽しむことのできる一口からすべては始まる。苦しみながら頑張るだけの一口からは、じつは何も始まらない。

私たちが手をつなぎ合い、子どもと家族と共に喜び合える存在になれることを願う。

こどもの食事を知る

子どもにとっての食事の意義

そこには食事を目の前にして、目をキラキラと輝かせ期待に満ちた子どもがいる。たとえ拒食がある子であっても、家族や友達を楽しそうに食事をする様子をチラッと見ており、心の中に挑戦したい気持ちを持っている。この子たちは成長していく存在であり、食事を楽しむ権利を持っている。それを実現できるのかは、じつは私たちがいかかわり方にかかっているのだ。

そもそもこの子にとって、食事はどんな意味を持つのだろうか。そしてわが子を優しいまなざしで見つめる家族にとって、この子の食事はど

虐待防止の
一歩手前から

文字のない絵本を通じた 虐待よぼう推進事業

虐待のリスクは子育てに関わるすべての人にある

NPO法人ケア・センターやわらぎ
社会福祉法人にんじんの会

石川はるえ

絵本作家

なるかわしんご



「児童虐待予防絵本」の誕生

石川はるえ

① 出会いと想い

若者の創業支援プログラムの1つとして、今から10年前に開始された「東海若手起業塾」*があります。私は当初よりメンターとして9年間関わらせていただき、3年前（2015年度）の起業塾へエントリーしてきた^{なるかわ}生川さんと出会い

ました。生川さんは絵本作家として活動しながら「児童虐待防止」に関心をよせて、自ら小さな絵本を制作しています。その絵本を見せて頂いた時、やわらかな色使いと優しいタッチで虐待場面を描いてはいない絵本でしたが、なぜか「嗚呼、子どもが一番しんどくてつらい場面だ」とズンと感じたのを覚えています。

また、30年前に日本で最初に24時間365日の在宅福祉サービスを実践してきた経緯の中で、



絵本「あそぼ あっぷっぷ」

